

岩座の上に立つ」と経典に記されています。

滝壺稲荷（堀滝）境内に三基、荒井・新町・御用地にそれぞれ一基ずつ、谷地開墾記念として相川に一基の不動石仏が造立されています。

不動尊（俱利伽羅不動）は竜王ということから、水に縁があると考えられ滝のある所、清水の湧く所、川の淵に建てられ“水の守り神”としての意味が多くなったように思われます。

破邪剣正・怨敵・災害・病魔などの降伏を願えばみな叶えてくれそうです。こうした信仰から町内にも“不動石仏”が見られるのです。

## 17 雷 神

雷鳴と稲妻を神格化し“かみなり”を起こす神といわれってきました。

鬼に似た姿をして、虎の皮のふんどしをしめ、輪形に連ねた太鼓を負って、手にばちを持つ“いかずちの神”とも呼ばれました。

享保二十年（一七三五）ごろから、宝暦十三年（一七六三）にわたる三十年の間に“雷神祠”は、山の頂や、集落の中央に造立されました。

上荒井集落のほぼ中央に、明治四十一年（一九〇一）に

建立の地上高三メートルを越す“雷皇神社”が見られます。

稲光・稲妻は、稲の穂をはらませるといわれ、豊年の祈願の神として信仰されました。

古くから、五月六日を雷神様の日とし、水田に入ること忌み仕事を休んで“雷神”荒魂を鎮める祭りが行われました。

## 18 古峯神社

栃木県鹿沼市横根山の北林麓と古峯ヶ原峠（一二六二メートル）の東麓との間、老スギの茂った所に「古峯神社」があります。

ここは、火防・盗難除け・農作物の守護神として、現在もあがめられています。

町には、明治三十年（一八九七）以降、ほとんどの集落の中央に地上高二メートル余の石柱形をした「古峯神社」が造立されています。

明治代に五基・大正代に五基・昭和に入って五基トータルで十五基に及んでいます。

こぶがはら講（古峯神社）は、毎年廻り宿にして、集まり総会を開きます。くじ引きで代参人を決めます。代参を無事に済ませて帰ってくると、決められている旅費、お礼